

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2015/12/1~2016/3/31) 資料 5-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	B型肝炎	PLoS One. 10(2015):e0138552	オカルトB型肝炎ウイルス感染(OBI)の伝播に関する報告。B型肝炎ウイルス(HBV) 顕性感染を認めた男児とOBIを認めた両親について、HBVの系統発生的解析を行った結果、男児の全ての配列と父親の大半の配列は同一のクラスターに属することが判明したが、母親と男児の配列については同一のクラスターに属するものはなかった。また、男児と父親のHBs抗原遺伝子のアミノ酸置換のパターンは同一であった。著者らは、父親が男児のHBV感染の感染源であると結論付けており、OBIも密接な接触を介して伝播し顕性感染として出現する可能性が示唆されたと報告している。
2	E型肝炎	PloS one. 10(2015)e119576	オーストリア北部の献血者におけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。58,915例の献血者を検査した結果、0.01%がHEV-RNA陽性であったが、肝炎の症状がなく臨床検査値も正常であった。
3	E型肝炎	ProMED-mail 20151027.3747156	厚生労働省の全国的な研究によると、日本において輸血が原因と確認された慢性E型肝炎感染症例2例が発生した。日本東部に在住の60代の女性1例および南西部に在住の40代の男性1例は、肝臓移植手術に伴う輸血によりウイルスに感染したことを、2015年10月26日に当局が発表した。これらの症例2例は日本において初めての慢性症例である。両症例とも手術後に投与された免疫抑制剤の作用により慢性的感染が発生したと考えられている。本研究では肝臓移植患者1893例が調査された。
4	E型肝炎	Vox Sang. 109(2015)406-409	E型肝炎ウイルス(HEV)に再感染したことを示唆する供血者が検出されたとの報告。ミニプール血漿スクリーニング検査でHEV RNA陽性となったドイツおよびスウェーデンにおける供血について、HEV IgM抗体およびIgG抗体検査を実施した結果、2名の供血者において親和性の高いHEV IgG抗体と高いウイルス量が認められたが、HEV IgM抗体は認められなかった。この結果から、著者らはこれらの供血者がHEVに再感染したことが示唆されると報告している。
5	E型肝炎	IDWeek 2015, Oct. 7-11, San Diego, CA. No.1201	移植患者におけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染に関する報告。2009年9月から2013年7月の間に移植を受けた患者1,002例のうち502例で、2回以上の肝トランスアミナーゼの上昇(ALTフレア)が認められ、このうちの215例についてALTフレアが発生した期間に採取した血漿661検体についてHEV RNAスクリーニングをした結果、1検体が陽性となった。著者らは、移植患者においてHEV感染がALTフレアの原因となることはまれであると報告している。
6	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2014-2015 Influenza Season Week 33 ending August 22, 2015	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)の報告。Iowa州においてH1N1vのヒト感染症例1例が報告された。継続したヒト-ヒト伝播は確認されておらず、本症例は発症の前週におけるブタとの濃厚接触が報告されている。
7	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2014-2015 Influenza Season Week 34 ending August 29, 2015	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。Michigan州においてH3N2vのヒト感染症例1例が報告された。継続したヒト-ヒト伝播は確認されておらず、本症例は発症の前週におけるブタとの濃厚接触が報告されている。
8	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2014-2015 Influenza Season Week 49 ending December 12, 2015	米国におけるインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)の報告。Minnesota州においてH1N1vのヒト感染症例1例が報告された。本症例はブタの飼育場所の近隣に在住および勤務していたが、発症する前の週にブタとの直接的な接触はなかった。継続したヒト-ヒト伝播は特定されていない。
9	インフルエンザ	CDC FLUVIEW 2015-2016 Influenza Season Week 52 ending January 8, 2016	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。New Jersey州においてH3N2vのヒト感染症例1例が報告された。本症例はブタが頻りに収容されている小屋付近を訪れていたが、発症する前の週にブタとの直接的な接触はなかった。継続したヒト-ヒト伝播は特定されていない。
10	インフルエンザ	ProMED-mail 20150804.3556121	米国におけるインフルエンザに関する報告。Clinical Infectious Diseasesに掲載されたChoiらの報告によると、米国Minnesota州の生きた動物を扱う市場において新型インフルエンザAウイルスの発生および種間伝播の起源となる可能性が示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
11	インフルエンザ	Epidemiol Infect. 143(2015)2965-2974	台湾における鳥インフルエンザウイルスの報告。台湾において、生きた家禽を扱う行商人、養鶏農家、非家禽労働者について種々の鳥インフルエンザウイルスの抗体価を調査し、地理的分析を行なった結果、家禽におけるアウトブレイクが報告された地域に近い場所で働いていた家禽労働者はウイルス曝露のリスクがより高いことが明らかとなった。ヒトにおける特定の鳥インフルエンザ株の血清陽性率は、その地域の家禽での流行株を反映しているとの報告。
12	インフルエンザ	J Gen Virol. 96(2015)975-981	中国における鳥インフルエンザA(H5N6)の報告。2014年に中国の四川省と江西省の生きた家禽を扱う市場から8件のH5N6が分離された。これはH5N1クレード2.3.4.およびH6N6ウイルス間の新たな再集合体であり、四川系統と江西系統の2つの異なる系統に進化したことが明らかになったとの報告。
13	鳥インフルエンザ	Jpn J Infect Dis. 68 (2015) 364-369	中国における鳥インフルエンザウイルスの報告。H10N8ウイルスのヒト感染例が初めて報告された中国南昌において、2013年12月から2014年1月の間に生きた家畜を扱う市場から集めた618検体のうち201検体が鳥インフルエンザウイルスに対して陽性であった。このうち42検体は異なるHA亜型との混合感歴を認め、うち21検体はH9とH10亜型の共存を示し鶏サンプル由来であった。著者らは、H10N8ウイルスがH9とH10亜型のセグメント再集合に起源を発する可能性が示唆されたと報告している。
14	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20160102.3904985	2010年から2013年の中国におけるブタに関するサーベイランスにより、インフルエンザウイルス Eurasian avian-like H1N1 (EAH1N1) が分離された。本サーベイランスでは中国24省のブタ340,000頭以上からサンプルが採取され、分離されたインフルエンザウイルスのうちEAH1N1は最も一般的な株であり、中国の10省において確認された。著者らは当該ウイルスがヒトに容易に感染する可能性が示唆されたと報告している。
15	ウエストナイルウイルス感染、セントルイス脳炎	CDC MMWR, 64(2015) 1349-1350	米国における初めてのセントルイス脳炎ウイルス (SLEV) とウエストナイルウイルス (WNV) の同時アウトブレイクの報告。2015年7月末までにアリゾナ州において7例のSLEV症例が確認され、2015年11月24日時点で75例のWNV症例と19例のSLEVを含む計117症例のフラビウイルス症例が報告された。
16	エボラ出血熱	N Eng J Med. 373(2015)2448-2454	2015年3月、リベリアにおいてエボラウイルス病 (EVD) の生存者である男性との性交渉により女性パートナーがエボラウイルス (EBOV) に感染した。女性の血液検体および男性の精液検体からEBOVのゲノムが抽出され直接感染を指示する解析結果が得られた。EVD発症後179日目の精液中には感染性EBOVが存在するとの報告。
17	エボラ出血熱	WHO GAR 2015年8月26日付け	2015年8月23日までに、世界でエボラウイルス疾患 (EVD) 症例計28041例 (死亡11302例) が報告されている。8月23日までの1週間にEVDの確定例3例が報告され、3例ともギニアからの報告であった。8月23日までの1週間にリベリアおよびシエラレオネから新規症例の報告はなかった。アウトブレイクが始まって以降、ギニア、リベリア、シエラレオネで報告された医療従事者の感染確定例は計881例、死亡は512例である。
18	エボラ出血熱	WHO GAR 2015年9月23日付け	2015年9月20日までに、世界でエボラウイルス疾患 (EVD) 症例計28331例 (死亡11310例) が報告されている。9月20日までの1週間にEVDの確定例2例が報告され、いずれもギニアの症例であった。今年7月末以降、症例発生数は毎週10例未満の水準が続いている。迅速かつ正確な症例調査と接触者追跡、迅速な隔離と治療、影響を受けている地域への効果的な取り組みが、症例の発生を現在の水準まで下げることに重要な役割を果たしている。
19	エボラ出血熱	WHO GAR 2015年10月28日付け	2015年10月25日までに、世界でエボラウイルス疾患 (EVD) 症例計28575例 (死亡11313例) が報告されている。10月25日までの1週間、EVDの新規確定例3例が報告された。3例ともギニアにおける報告であった (ForecariahのKaliahからの3例)。13週連続で、1週間あたりの発生症例は5例以下のままである。同期間中、ウイルスの伝播は地理的にギニア西部およびシエラレオネのいくつかの狭い地域に限定され、流行の第三段階に移行していることが示された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
20	エボラ出血熱	WHO GAR 2015年11月18日付け	2015年11月15日までに、世界でエボラウイルス疾患 (EVD) 症例計28634例 (死亡11314例) が報告されている。11月15日までの1週間でギニアから確定例の報告はなかった。ギニアから直近の症例が報告されたのは10月29日である。11月7日、WHOはシエラレオネでエボラウイルスの伝播が終息したと宣言した。現在シエラレオネは2016年2月5日に終了予定の90日間の強化監視期間に入っている。リベリアとシエラレオネは、対応のフレームワーク第3段階の目標1(残存する全てのエボラウイルスの感染連鎖を遮断する)を達成した。
21	エボラ出血熱	http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM475072.pdf	2015年12月、米国FDAより「エボラウイルス(EBV)への対応における供血者の適合性、供血延期、および血液製剤管理の評価に対する勧告(業界向けガイダンス案)」が発出された。勧告の主な内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・EBV感染者、エボラウイルス性疾患(EVD)既往者は無期限の供血延期とする。 ・EVD流行地から出国後8週間以内は供血延期とする。 ・EBV感染者またはEVD発症者と接触後8週間以内は供血延期とする。
22	エボラ出血熱	transbound emerg dis. 2015. doi: 10.1111/tbed.12394.	ウガンダにおけるエボラウイルス (EBV) 感染伝播に関する報告。ウガンダにおける疫学的検討の結果、ブタの飼育地が潜在的なEBV宿主の生息環境と重なることや豚肉の消費最大時期とEBV感染のアウトブレイクとの間に時間的相関関係が認められたことなどが示され、著者らはブタからヒトへのEBV感染伝播の可能性が示唆されると報告している。
23	ハンタウイルス感染	Emerg Infect Dis. 21(2015)2204-2208	ロシアにおける新種のハンタウイルスであるソチウイルスの報告。2000年から2003年にソチウイルスに感染した患者62例の致死率は14.5%であった。患者の約60%が重症であり、残る40%が中等症であった。女性患者に比べ男性患者の重症度は高かった。
24	ハンタウイルス感染	ProMED-mail 20150804.3558170	米国におけるハンタウイルス感染の報告。Tippecanoe County Health Departmentによると、Purdue Universityにおけるハンタウイルス感染の確定例1例について調査が進行中である。本症例は、研究プロジェクトの一環で感染の可能性のある野ネズミを取り扱った後に発症した。本症例は米CDCによる血液検査でハンタウイルス感染症に陽性であった。
25	麻疹	日本公衆衛生雑誌. 62(2015)566-573	国内における麻疹患者数の報告。2014年の累計報告数は前年度の約2倍の463例に達した。大阪府においても、2014年の累計報告数は46例であり、2013年の15例の3倍以上の報告数であった。
26	狂犬病	ProMED-mail 20151205.3843021	PLoS Neglected Tropical Diseasesで発表された研究によると、インドの研究者らが同国のニワトリ1例における初の狂犬病症例を報告した。そのニワトリは野良犬に咬まれて1ヵ月後に死亡し、ニワトリの死骸は狂犬病診断のための検査室に送られた。蛍光抗体試験 (FAT) で脳組織が狂犬病ウイルス抗原に対して陽性と判定され、狂犬病の診断が確定した。
27	チクングニヤウイルス感染	Euro Surveill. 20(2015) doi: 10.2807	フランス領ポリネシアではチクングニヤ熱のアウトブレイクが発生した期間 (2014年10月~2015年3月) において、ギラン・バレー症候群の症例数が例年の4~9倍に増加しチクングニヤウイルス感染との関連が示唆された。
28	チクングニヤウイルス感染	Neurology. 86(2016)94-102	フランス領レユニオン島におけるチクングニヤウイルス (CHIKV) について。レユニオン島において2005年9月から2006年6月までの期間にCHIKV関連脳炎患者24例を含む57例の患者がCHIKV関連中枢神経系疾患の診断を受けており、累積罹患率は10万人あたり8.6人であった。CHIKV関連脳炎の致死率は16.6%であり、後遺症を有する状態で退院した小児の割合は30%から45%と推定された。
29	デング熱	Proc Natl Acad Sci U S A. 112(2015)14688-14693	臨床症状が認められないデングウイルス (DENV) 血症患者においても感染力を有している可能性が報告された。不顕性感染または発症前の状態にあるDENV患者の蚊に対する感染力は、発症した患者と比較して有意に高いことが報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
30	サイトメガロウイルス感染	57th ASH Annual Meeting & Exposition. December 5-8, 2015, Orland, FL. No.2346	サイトメガロウイルス (CMV) 抗体陽性血液製剤の輸血により、造血幹細胞移植患者におけるCMV再活性化リスクが上昇することはないとの報告。
31	サイトメガロウイルス感染	Am J Infect Control. 43(2015)1218-1221	日本の妊婦における血清サイトメガロウイルス (CMV) IgG抗体陽性率の報告。妊婦7,074例を対象とした検討の結果、CMV IgG抗体の陽性率は69.1%であった。妊娠期間中のセロコンバージョン率は0.37%であり、その37.5%において新生児CMV感染が発生した。
32	中東呼吸器症候群	WHO Disease outbreak news 2015年6月4日付	オマーンにおける中東呼吸器症候群 (MERS) の報告。2015年5月29日オマーンにおけるMERSコロナウイルス感染の追加症例1例がWHOに報告された。本症例は2015年5月11日に症状を呈した。ラクダおよび子ウシとの頻繁な接触層があった。
33	フラビウイルス感染	Rapid risk assesment. ECDC	南北アメリカ大陸および南太平洋地域においてジカウイルスのアウトブレイクが急速に拡大し、小頭症、ギラン・バレー症候群およびその他の神経学的合併症とジカウイルスの関連性が示唆された。
34	ウイルス感染	ProMED-mail 20151126.3819995	ブラジルにおける新生児の小頭症の報告。2015年11月21日までにブラジルにおいて739例の小頭症が報告された。11月17日に超音波検査で胎児が小頭症と確認された2例の妊婦の羊水からジカウイルスRNAが検出された。妊婦のジカウイルス感染と児の小頭症との関連性は不明である。
35	ウイルス感染	http://www.cdc.gov/media/releases/2016/s0315-zika-virus-travel.html	米CDCは、ジカウイルス感染が継続している地域や特定の国 (ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、フランス領ギアナ、グアテマラ、ハイチ、ホンジュラス、マルティニーク、メキシコ、パナマ、パラグアイ、スリナム、ベネズエラ、プエルトリコ) への渡航者に対し、渡航勧告 (レベル2- 予防措置の強化) を発出した。本勧告は、妊娠中にジカウイルスに感染した母親から生まれた新生児における小頭症などの妊娠転帰不良がブラジルで報告されていることを受けて出されたものである。
36	ウイルス感染	AABB Weekly Report. October 2, 2015 Vol.21 No.34	米国における血液製剤によるHuman hepevirus感染の報告。米国において輸血患者2例および血漿由来の血液凝固因子製剤を投与された患者2例において、HCVに類似する新種のウイルスHuman hepevirus1型が検出された。血液製剤投与前の患者血液からは、このウイルスは検出されておらず、血液製剤による感染が疑われるとの報告。
37	ウイルス感染	PLoS Pathogens. 11(2015):e1005325	C型肝炎ウイルス (HCV) に感染したヒトにおいて新規のヒトpegivirusが特定されたとの報告。慢性肝疾患患者150例以上の血液サンプルについてメタゲノム解析を行い、HCV感染者においてヒトpegivirus2型が同定された。
38	ウイルス感染	ProMED-mail 20151215.3864342	C型肝炎ウイルス (HCV) に感染したヒトにおいて新規のヒトpegivirusが特定されたとの報告。慢性肝疾患患者150例以上の血液サンプルについてメタゲノム解析を行い、HCV感染者においてヒトpegivirus2型が同定された。
39	ウイルス感染	Clin Microbiol Infect. 21(2015)1115-1120	中国における重症熱性血小板減少症候群ウイルス (SFTSV) の報告。中国南東部において2014年5月に発生した計13例のSFTSV集団感染について疫学的調査が実施された。8例は発端患者の家族であり、4例は隣人であった。また、8例は発端患者の血液に接触歴があり、2例は血液への接触歴はなかったが発端患者の葬儀会場に長時間滞在していた。著者らは、SFTSVは直接的な接触やエアロゾルにより、ヒトからヒトへ伝播する可能性があるとの報告している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
40	ウイルス感染	J Clin Virol. 74(2016)78-81	カルジオウイルス属に属するSaffoldウイルスがヒトの心筋に侵襲的感染を引き起こす可能性について。デンマークにおいて剖検時に心筋炎と診断された死亡患者150例のホルマリン固定パラフィン包埋心臓組織検体を用いて検討した結果、小児1名の心筋組織、肺組織および血液からSaffoldウイルスが検出され、同時にウイルス感染に伴う心臓病及び肺の病理組織学的炎症所見が認められた。著者らはカルジオウイルスと心筋炎との関連の可能性が示唆されたと報告している。
41	ウイルス感染	ProMED-mail 20150917.3650625	ウシ白血球ウイルス (BLV) と乳がんに関する症例対象研究。乳がん女性の乳腺上皮におけるBLVのDNA検出率は、罹患暦のない患者と比較し有意に高く、BLV存在下における乳がんリスク比はBLVがない場合の3.1倍であったことが報告された。
42	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA Guidance for Industry. Updated January 2016.	米国FDAにより、クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) および変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) の血液および血液製剤を介した伝播リスクを低減するための業界向けガイダンスが改訂された。主な改訂内容は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・血漿分画製剤の表示に関する勧告 ・世界のvCJDおよび牛海綿状脳症(BSE)の流行状況にかかる更新情報 ・家族にCJDの履歴がある供血者のリエントリー基準の明確化 (遺伝子配列検査による供血者の家族性CJDに関連した変異がないことの証明が必要であったが、CJDに罹患した家族が第二度近親である場合、罹患家族本人又は供血者の親の遺伝子配列検査を実施すれば、当該供血者が家族性CJDに関連する変異をもっていないことを示すためには十分であるとの見解が示された。) ・生物学的製剤逸脱報告に関連する要件の明確化
43	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 55(2015)2390-2397	プリオン除去フィルター (P-Captフィルター) のプリオン除去能の評価。236Kスクレイピー感染ハムスターの血液について、白血球除去およびP-Captフィルターを通過後のプリオン感染性を評価した。白血球除去により感染性の大部分が除去され、加えてP-Captフィルターでろ過することにより感染性がさらに除去されるが、感染性の残存が認められることが明らかとなった。
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE 2015年9月29日	スロベニアのウシ1頭において非定型BSE (H-BSE) が確認された。
45	多系統萎縮症	Proc Natl Acad Sci USA. 112(2015) E5308-17	パーキンソン病様症状を呈する多系統萎縮症患者の脳から、伝播性 α -シヌクレインプリオンタンパク質の存在が確認されたとの報告。
46	ウシ結核	ProMED-mail 20151205.3843019	ニュージーランドにおける家畜のウシ結核の報告。Mt Cargillにおいて家畜のウシ結核のアウトブレイクの原因について調査が進行中である。屠殺および結核の定期検査により3群の感染が特定され、これらの群にはウシとシカが含まれると考えられた。
47	エンテロバクター感染	ProMED-mail 20151122.3810204	Lancet Infectious Diseasesに掲載されたLiuらの報告によると、中国の動物およびヒトからサンプリングしたE. coliにおいてプラスミド媒介性のコリスチン耐性遺伝子が確認された。
48	ノカルジア症	J Clin Microbiol. 53(2015)1034-1037	ヒトにおける初めてのNocardia cerradoensisの報告。フランスにおいて腎移植患者の脳生検でヒトにおける初めてのNocardia cerradoensisによる播種性感染が報告された。
49	ライム病	Lancet infect Dis. doi:10.1016/S1473-3309(15)00464-8	米国において、ヒトにライム病を引き起こす新たな原因菌種が発見された。暫定的にBorrelia mayoniiと名付けられ、遺伝子検査によりBorrelia burgdorferiの近縁種であることが判明した。
50	ブルセラ症	ProMED-mail 20150923.3666018	オーストラリアにおけるブルセラ症の報告。New South Wales北部のブタのハンター1例が、2015年にブルセラ症に感染し、この症例がヒトにおける3例目の症例であることが報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
51	野兔病	CDC/MMWR 64(47) 1317-1318	米国におけるヒトの野兔病症例の増加の報告。米国では これまでの20年間、年間約125例の野兔病が報告されていたが、2015年は9月30日時点で、Colorado州、Nebraska州、South Dakota州、およびWyoming州の在住者から野兔病症例が計100例報告され、2004～2014年の各州における年間平均症例数から、大幅な増加を示している。可能性のある曝露経路には、動物との接触、節足動物咬傷などが含まれていた。
52	野兔病	N Engl J Med. 373(2015)2271-2276	米国における野兔病の報告。患者は28歳男性1例であり、この患者は発症直前に芝生の草刈を行っており、そこに多数のウサギと野生のネズミがいたことが報告されている。
53	野兔病	ProMED-mail 20150204.3995341	ウクライナにおける野兔病の報告。クリミア半島において20年間で初めて野兔病が2例報告された。これらの症例は、狩猟シーズン中にDobrusina village近隣のSaksky territoryで狩猟された野ウサギとの接触により発生した。
54	野兔病	ProMED-mail 20150819.3580618	米国における野兔病の報告。2015年8月13日、New Mexico Department of Healthにより、New Mexico州におけるヒトの野兔病の確定例1例が発表された。また、Wyoming State Veterinary Laboratoryによると、野生動物および飼育動物における数例の野兔病症例が診断されており、2015年の夏はColorado州とWyoming州で多数の野兔病のヒト症例が発生している。Arizona州においては、これまでにCoconino Countyで2例のヒトの野兔病症例が確認されており、これら2例は2015年7月に虫に刺されて曝露した可能性が高い。
55	野兔病	ProMED-mail 20150825.3699260	米国における野兔病の報告。Wyoming州 Big Horn Countyの74歳の男性1例が、野兔病により2015年8月16日に死亡した。2015年のWyoming州における本疾患によるヒトの死亡は初めてであると専門家は考えている。当局は、2015年のWyomingにおいて本疾患に感染したヒトは11例であると確認している。
56	野兔病	ProMED-mail 20150828.3608721	米国における野兔病の報告。Colorado州において、新たに複数のウサギが野兔病に対して陽性と判定された。これらのウサギはPueblo County、Pueblo cityの西部で発見された。
57	野兔病	ProMED-mail 20150830.3609784	米国における野兔病の報告。2015年7月以降、スウェーデンの北部沿岸地域であるNorrbottenおよびVasterbotten countyにおいて、ユキウサギ (<i>Lepus timidus</i>) の死亡数の増加が示されており、野ウサギ10羽のPCR分析から野兔病に対する陽性の結果が得られた。同じ地域において、多数のヒトの野兔病症例も報告されている。
58	野兔病	ProMED-mail 20150830.36142365	米国における野兔病の報告。Arizona州において、住民からのウサギの大量死の報告をうけ、Arizona Game & Fishが検査を実施したところ、Dewey地区のウサギ3羽が野兔病に対して陽性と判定された。
59	野兔病	ProMED-mail 20150925.3670429	米国における野兔病の報告。Wyoming州 Laramie County在住の男性1例が野兔病と診断された。同州の年間平均症例数は1例または2例であるが、2015年は現時点で16例が報告されている。Nebraska州および近隣の州において野兔病が広範囲にわたり報告されており、2015年は現時点で、18例がNebraska Department of Health and Human Servicesに報告されている。
60	野兔病	ProMED-mail 20151108.3775022	カナダにおける野兔病の報告。Ontario州 Northern Life Greater Sudbury areaの成人の住民1例における野兔病が検査により確認された。本症例は野生動物との接触により感染したと考えられている。
61	野兔病	ProMED-mail 20151215.3865365	デンマークにおける野兔病の報告。野ウサギ (<i>Lepus europaeus</i>) において野兔病症例1例、死亡1例が報告された感染源は不明もしくは結論に到達していない。
62	野兔病	感染症発生情報 2015年 第35週	山形県においてヒトにおける野兔病1例が発生した。感染経路は不明。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
63	梅毒	ProMED-mail 20150713.3507530	オーストラリアNorthern Territory (NT) の先住民の若者の間で起きた梅毒のアウトブレイクは、胎児に脅威を引き起こしている。NTのCDCIによると、2014年6月以降に中央オーストラリアのBarkly/Katherine地域において、この性感染症に関して134例が報告されている。これは2013年～2014年(事業年度)における報告例15例よりも増加している。通知された症例の大半は15歳～19歳の先住民であった。
64	Q熱	MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 64(2015) 1071-1073	米国及びカナダにおけるQ熱の報告。ニューヨーク州保健局は、2014年9月から11月にニューヨーク州住民5例がQ熱の病原体であるCoxiella burnetii陽性と判定されたとの通知を受けた。5例の患者は2014年5月にドイツにおいてヒツジ胎児細胞注射術を受けていた。カナダの住民1例もヒツジ胎児細胞注射術を受けた後、Q熱と診断された。
65	細菌感染	AABB Annual Meeting Anaheim, CA, October 24-27, 2015	国内における血小板製剤からLactococcus garvieaeが分離されたとの報告。出庫前検品により凝集塊が確認された血小板製剤について、BacT/ALERT(自動培養装置)と平板培養法により菌を分離し、VITEK2(自動同定装置)と16SrRNA遺伝子解析法を用いて解析を実施した。また、分離された菌の低温10°C以下での増殖性を観察した。解析の結果、当該菌株はLactococcus garvieaeである可能性が高いと考えられた。
66	細菌感染	Emerg Infect Dis. 21(2015)2106-2108	フランスにおけるSporolactobacillus laevolacticus (S.laevolacticus) の報告。フランス在住の男性がコモロにおいて足を負傷後、腫脹、発赤、熱感、疼痛を認め、フランス帰国後にS.laevolacticusが同定された。本症例はS.laevolacticusによる初めてのヒト症例である。感染の原因は創傷部位と本細菌を含む土壌との接触によると考えられている。
67	細菌感染	Travel Med Infect Dis. 13(2015)503-504	ドイツにおける Xenophilus feline oral 感染の報告。イヌに咬まれた患者においてヒトで初めてのXenophilus feline oral 感染が確認された。
68	細菌感染	https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/454816/Emerging_infections_summary_July_2015.pdf	Mannheimia glucosida (M.glucosida) による初めてのヒト感染例の報告。右母指に10ヶ月齢子ヒツジによる咬傷を負った64歳男性からM.glucosidaが検出された。
69	マラリア	ProMED-mail 20150916.3650404	インドにおけるマラリアの報告。Haryana state、Mewat districtにおいて、今季の現時点でベクター媒介性疾患症例1448例が報告されている。2014年の総数より約4倍多い症例数である。マラリアのアウトブレイクによりMewat districtの農村地域では17例が死亡した。PunhanaおよびNuh地域が最悪の被害を受けており、マラリアの確定例約1430例が報告されている。マラリア症例は、Punhanaから1131例、Nuhから299例、Firozpur Jhirkhaから18例発生している。
70	マラリア	ProMED-mail 20151105.3768336	ベネズエラにおいてマラリア症例が2015年10月17日時点で105757例記録されていることをMinistry of HealthがComprehensive Environmental Health Bulletinで発表した。ベネズエラで疫学データの記録が開始された1936年以降、これほど感染者数が多かったことはない。2015年の数字は過去5年間と比較して110%の増加となっている。症例の大半はBolivar (84418例、80%)とAmazonas (13.6%)に集中している。
71	クリプトスポリジウム感染	Parasites & Vectors. 8(1) 2015.9.22	中国黒龍江省の下痢のウマ29頭の便サンプルからクリプトスポリジウム分離株が得られた。分離株はC.andersoniで、この種がウマから発見されたのはこれがはじめてであるとの報告。